

令和6(2024)年度下都賀地区初任者研修会(学習指導、児童・生徒指導)を開催しました

日時 令和6(2024)年8月20日(火)実施
会場 栃木市大平文化会館・栃木市大平公民館・大平勤労青少年ホーム
対象 下都賀地区令和6年度新規採用教員

I 研修の目的・内容等

(1) 目的

- ア 学習指導や児童・生徒指導等について基礎的な指導力の向上を図り、自信と希望をもって日々の教育活動に取り組めるようにする。
- イ 職務に専念することなど教職員としての使命を自覚し、自己啓発に努めようとする態度を養う。

(2) 会場

栃木市大平文化会館・栃木市大平公民館・大平勤労青少年ホーム

(3) 内容

- 趣旨説明
- 講話「学業指導について～児童・生徒指導の充実～」
- 児童・生徒指導に関する研修
- 学習指導に関する研修



2 本研修で確認したこと

(1) 講話「学業指導について」及び趣旨説明から

- ア 児童・生徒指導が目指すもの
 - ・児童・生徒指導の目標は、自己指導能力を育成することである。

「その時 その場 でどのような行動が適切か、自分で考えて 決めて 実行する能力」
・自己指導能力の育成を図るためには、大きく4つの働きかけが重要となる。

- 一人一人が「自己存在感」を実感できる場を設定すること
- 「共感的人間関係」の育成を図ること
- 児童生徒に「自己決定」の場を用意すること
- 「安全・安心」な風土を醸成すること

キーワードは「**存 共 決 安**」

- イ 未然防止、早期発見・早期対応
 - ・問題行動等の早期発見の前段階となる「未然防止」の取組を充実させることが大切である。
 - ・未然防止の取組は、すべての児童生徒が対象となる。
- ウ 学業指導について
 - ・未然防止の視点に立った児童・生徒指導は、学業指導と深く関わっている。
 - ・学業指導を推進するには「学びに向かう集団づくり」と「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」の両側面から取り組むことが求められる。
 - ・先生方一人一人が明確な目的をもち、学業指導の充実に向けた取組を意図的、計画的に実践することが大切である。
 - ・本研修のテーマである「学習指導」と「児童・生徒指導」は、一体として捉えることが大切である。

3 本研修で学んだこと（研修者が記入した「研修の振り返り」から）

- ・児童・生徒指導では、何か起きてから行動するのではなく、未然に防ぐための発達支持的生徒指導がとても大切であることを学びました。また、意図的に課題未然防止教育も組み込んで指導をしていくことが必要だと知りました。9月から意識していきたいです。
- ・特に「生徒指導は明日の成長につながっていくもの」という言葉が心に残りました。子どもたちの成長につながるように、まずは「話を聞く」ということを大切にしたいです。
- ・私は他人に頼ることが苦手で、一人で考え実行する癖があります。学校にはさまざまな立場の先生がいて、それぞれが得意としていることがあることを知りました。また、自分の立場でしかできないことや、得意が生かせる場面で、自分の力を発揮したいです。
- ・年度や学期始めのアイスブレイクで実践できるいろいろなミニゲームを教えていただきました。児童生徒を意識的に褒め、認める声掛けをして、教師としてどのような視点で児童生徒の様子を見るかということを知りました。
- ・「児童生徒がどのような場面でICTを活用したいか」という視点で活用を考えるのは初めてでした。異校種の先生と対話する中で、中学校段階におけるICTスキルは小学校からの積み重ねに依存することが分かり、積極的に活用する必要があると感じました。
- ・アイスブレイクをすることで緊張がほぐれ、周りの人と気軽に話せたり、輪が広がったりすることを実際に体感しました。今まで、懇談会という緊張して少し苦手感をもっていました。保護者からすると、担任はどんな人だろう、他の保護者はどんな人なのだろうと興味や心配があるんだと感じました。
- ・単元計画をどのようにつくればよいのか分かりました。学習指導要領を基に、単元のゴールを明確にしてから、計画を作成することで、ねらいに沿った活動を組むことができることを理解しました。
- ・算数の授業において、答えのみの確認になってしまう授業は危険であることを学びました。「何となくわかった」をしっかりと理解するために、解答の根拠を説明することや、友達同士で自分の考えを説明し合う機会を設定することが必要だと思いました。
- ・単元に合ったウォーミングアップ次第で、児童生徒の運動に対する意欲が変わってくると思いました。運動が苦手な生徒だけでなく、運動が得意な生徒も楽しみながらその運動に対する意欲が上がるよう、運動に適したウォーミングアップを考えていきたいです。
- ・「児童生徒が主体的に考える」ために特に大切だと感じたのは、「子どもに意見を持たせる」ことです。そこに意識を向けないと、何もしない児童がいても授業は進んでいきます。そのような児童生徒を減らすためにも、発問や表現方法を工夫していきたいです。
- ・外国語科の目標は、小中ともに「言語活動を通して」という言葉が入っており、言語活動がどれほど重要なのかを再確認しました。言語活動は、互いの考えや気持ちを伝え合う活動であり、文法を使いこなすことがゴールではないと学びました。
- ・今回、自分たちが児童の気持ちになって学級活動を行って学んだことは、学級会において任せると決めたら、信じて見守ることがとても重要であることです。見守る姿勢と、声をかけるタイミングを見極められるように勉強し続けていきたいです。
- ・児童生徒目線で体験しながら受講できたので、このような発問をすればよいのだと学ぶことができました。本時のねらいにせまるために、指導書にたよるだけでなく目の前の子どもの実態に応じて工夫していきたいと思いました。また、予想される反応も併せて考えておくことで、問い返しによって学びを深められるようにしていきたいです。

